

IV . 保 育 士 養 成 課 程 科 目

社会福祉概論

半期 2単位 必修 受講対象学年2年次

松本峰雄

[授業概要・到達目標]

すべての人間の一生の生活に関わる福祉を、福祉の原点である①人権の尊重、②ノーマライゼーション、③自律、④連帯について考える同時に、福祉と人権についての考察を加える。

[授業のねらい・方法]

テキストを使用し、その時々福祉に関するニュースなども交え、受講生とともに考えていく。

[授業形態] (履修条件)

講義形式とし、保育士資格取得学生は必修

[各回の授業計画(内容)]

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容	人間とは何か	人間の生活と福祉 ①人間の生活と福祉	ヒトと人間の違い	
第2回 内容	代表的な社会福祉の定義を調べる	②社会福祉とは	社会福祉の定義を知る	
第3回 内容	ライフサイクルを調べる	社会福祉の対象 ①社会福祉の対象の捉え方	ライフサイクルと人権・福祉	
第4回 内容	生活保護法第1条を調べる	②生活困窮者の福祉	生活保護法の理解	
第5回 内容	身体障害者福祉法・知的障害者福祉法の第1条を調べる	③心身に障害のある人の福祉	身体障害者・知的障害者福祉法の理解	
第6回 内容	老人福祉法第1条を調べる	④高齢者の福祉	老人福祉法の理解	
第7回 内容	児童福祉法第1条～第4条を調べる	⑤子どもと家庭の福祉	児童福祉法の理解	
第8回 内容	母子及び寡婦福祉法第1条を調べる	⑥母子及び寡婦の福祉	母子及び寡婦福祉法の理解	
第9回 内容	社会福祉法の地域社会について調べる	⑦地域社会と福祉	地域社会と福祉の理解	
第10回 内容	部落差別の実態について調べる	⑧その他の福祉	部落差別等の理解	
第11回 内容	社会福祉六法を調べる	社会福祉の法と制度	社会福祉六法の理解	
第12回 内容	社会福祉行政の仕組みを調べる	社会福祉行政の仕組み	国・都道府県・市町村の社会福祉行政	
第13回 内容	社会福祉の方法について調べる	社会福祉の担い手 ①社会福祉の担い手	ケアワーカーの理解	
第14回 内容	保育士の倫理について調べる	②社会福祉と倫理	保育士と倫理	
第15回 内容	まとめ(社会福祉サービス)	社会福祉サービスの情報提供・苦情解決・権利擁護	社会福祉サービスの提供とは	

* 評価方法

欠席及び遅刻は減点、課題の提出、試験の総合評価

* 評価基準

試験は100点満点、欠席1回につき5点減点、課題を忘れると1回につき5点減点

* テキスト

『社会福祉と人権問題』 明石書店 松本峰雄著 2,000円

* 参考文献

『保育小六法』(中央法規)・『最新保育資料集』(ミネルヴァ書房)・『社会福祉小六法』(ミネルヴァ書房)は購入したほうがよい。

[授業概要・到達目標]

福祉専門職としての保育士の側面を理解し、社会福祉援助技術の基本的な知識と技術を体得する。
専門職としての自分(専門的自己)づくりと、その上で利用者との接する対人援助スキルを身につける。

[授業のねらい・方法]

この授業では主に社会福祉援助をなぜ私たちが学ぶのかをふまえた上、援助技術の体系と基本的視点を中心に学ぶ。現代社会において、福祉の形は多種・多様である。そのため、保育士も多くの形の援助(かかわり)を求められる。専門職として私たちは、どのような援助を利用者にすべきなのか、自らが考え実践できるような能力の習得を目指す。

加えて福祉に関わる人材として、自らのあり方を考え、福祉のプロとしてのあるべき姿を考える。この授業を通し、専門的自己(プロの自分)を意識し、実践で身につけたことと、この授業を積み重ね、頭でも体でもわかることを目標としたい。

[授業形態](履修条件)

授業では講義・演習両方を行う。演習では講義で学んだものをフィードバックする意味で、ロールプレイング、ディスカッション、グループワーク、体験型授業を実施する。

この授業は4/5以上の出席を必要とします。毎回熱意を持って取り組むこと。

[各回の授業計画(内容)]

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容	シラバスの社会福祉援助技術論のページを読んでおく。(当日シラバス持参のこと)	この授業のオリエンテーション。 コミュニケーション(演習1)	シラバスを確認しておく。	シラバス及びテキスト(過去の社会福祉関係の授業で使用したテキスト)
第2回 内容	テキストの目次に目を通す。課題レポートの作成。	授業になれよう。 コミュニケーション(演習2)各自が専門職として働くことを意識する。	演習の感想をノートにメモしておく。	テキスト
第3回 内容	テキストの指定された部分を読む。	社会福祉援助技術とは何か。福祉と援助技術と利用者、援助者の関係について。	テキスト、ノートの整理。キーワードの確認。	テキスト、福祉科目で使ったテキスト
第4回 内容	前回のノートの確認、不明点を明確にしておく。(小テスト用紙を活用)	社会福祉援助と保育士の関係を学ぶ。なぜ私たちがこの科目を学ぶのか。保育士が問題解決をするために使う技術について知る。	テキスト、ノートの整理。キーワードの確認。	関係する新聞記事等。
第5回 内容	前回のノートの確認、不明点を明確にしておく。(小テスト用紙を活用)	社会福祉専門職とは何か。一般人とプロの違いを理解する。	テキスト、ノートの整理。キーワードの確認。	テキスト
第6回 内容	前回のノートの確認、不明点を明確にしておく。(小テスト用紙を活用)	福祉専門職のコミュニケーションを考える。専門職としての態度を考える。	テキスト、ノートの整理。キーワードの確認。	テキスト及び配布プリント
第7回 内容	前回のノートの確認、不明点を明確にしておく。(小テスト用紙を活用)	専門職としての関わり(演習)プロの面接技術体感。今の自分のコミュニケーションに何が足りないのかを考える。	テキスト、ノートの整理。キーワードの確認。	配布プリント
第8回 内容	前回のノートの確認、不明点を明確にしておく。(小テスト用紙を活用)	社会福祉専門職に必要なものは何か。援助者の力量について理解する。	テキスト、ノートの整理。キーワードの確認。	テキスト
第9回 内容	前回のノートの確認、演習課題に対する準備。	自分を知らう(演習)。自己理解と自己覚知から他者理解へ	テキスト、ノートの整理。キーワードの確認。及び演習の感想を書いておくこと。	テキスト及び配布プリント。関連教科のテキスト
第10回 内容	前回のノートの確認及び指定されたテキストの部分を読む。	社会福祉援助の歴史。社会福祉援助技術がどのように作られてきたのか歴史背景を理解する。	テキスト、ノートの整理。キーワードの確認。福祉の科目のテキストで関連するところを復習しておくが良い。	テキスト及び配布プリント。関連教科のテキスト
第11回 内容	前回のノートの確認及び指定されたテキストの部分を読む。	社会福祉援助の体系。現在の3つの柱と12の援助技術を知る。	テキスト、ノートの整理。キーワードの確認。プリントを覚える。	テキスト、福祉科目で使ったテキスト。
第12回 内容	前回のノートの確認及び指定されたテキストの部分を読む。体系を覚える。	社会福祉援助に必要なもの(構成要素)を知る。また保育の現場でそれぞれを活用できる。活用できる社会資源を把握する。	テキスト、ノートの整理。キーワードの確認。及び構成要素を覚える。	テキスト
第13回 内容	前回のノートの確認及び指定されたテキストの部分を読む。構成要素を説明できるようにしておく。	社会福祉援助に必要なもの(援助者としての姿勢)を知り、自らが身につける。	テキスト、ノートの整理。キーワードの確認。援助者の姿勢を覚える。	テキスト
第14回 内容	前回のノートの確認及び指定されたテキストの部分を読む。援助者の姿勢を説明できるようにしておく。	半期の復習及び期末テストオリエンテーション	テキスト、ノートの確認。キーワードの確認。	テキスト、ノート。提出したレポート、配布プリントのコピーなど
第15回 内容		まとめ及び試験		
第16回 内容	シラバスの社会福祉援助技術論のページを読んでおく。(当日シラバス持参のこと)	後期授業オリエンテーション	テキスト、シラバスを確認。日本及び世界の歴史を確認。	テキスト、シラバス

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第17回 内容	課題提出物作成(記録の大切さ・絵日記)	社会福祉援助技術の歴史を理解する。社会福祉援助が作られた背景を知る。	テキスト、ノートの確認。キーワードの確認。福祉の科目のテキストの関係するところを復習。	テキスト、福祉科目で使ったテキスト
第18回 内容	前回のノートの確認及び指定されたテキストの部分を読む。	社会福祉援助の体系を理解する。体系をふまえそれが現代社会でどのように活用されているかを理解する。身の回りの社会問題と援助を関連づけ、考えることができるようになる。	前回のキーワードの確認、前期のキーワードを説明できるようにしておくこと。体系のプリントを覚える。	テキスト、福祉科目で使ったテキスト
第19回 内容	前回のノートの確認、前期のキーワードを説明できるようにする。	自己覚知を進めよう。専門的自己の確立へ	前回のキーワードの確認。前期のキーワードを説明できるようにしておく。	テキスト、福祉科目で使ったテキスト
第20回 内容	テキストの指定された部分を読む。個別援助の事例を確認しておく。	個別援助技術とは何か。利用者の問題解決をするにあたり、専門職として注意すべきこと。	テキスト、ノートの確認。	テキスト
第21回 内容	前回のノートの確認、不明点を明確にしておく。(小テスト用紙を活用)	個別援助の展開過程を学ぶ。各自が事例の上で、展開ができる。	テキスト、ノートの確認。個別援助の展開レポート作成。	テキスト、ノート、プリント
第22回 内容	前回のノートの確認、不明点を明確にしておく。(小テスト用紙を活用)	援助と面接。面接の技法を学ぼう。	テキスト、ノートの確認。面接演習の感想をまとめておく。	テキスト、ノート、演習の内容。
第23回 内容	前回のノートの確認、不明点を明確にしておく。(小テスト用紙を活用)	集団援助技術とは何か。集団援助の意義を理解する。	テキスト、ノートの確認。	テキスト
第24回 内容	前回のテキスト、ノートの確認。	集団援助の展開過程を学ぶ。事例に合わせて各自が集団援助を展開できる。	テキスト、ノートの確認。集団援助の展開過程のレポート作成。	テキスト、ノート
第25回 内容	前回のテキスト、ノートの確認。課題レポートの完成	記録の大切さ(絵日記を使って)	ノートの整理。演習の感想をまとめておく。	ノート、演習で使う資料。
第26回 内容	前回のノートの確認。間接援助の事例確認。指定されたテキストの部分を読む。	間接援助を知ろう。5つの技術を理解し、その内容を説明することができる。	テキスト、ノートの確認。	テキスト、ノート
第27回 内容	前回のテキスト、ノートの確認。指定されたテキストの部分を読む。関連援助の事例確認。	関連援助技術を知ろう。5つの技術を理解し、その内容を説明することができる。	テキスト、ノートの確認。	テキスト、ノート
第28回 内容	前回のノートの確認。今までの授業の内容確認。	間接援助技術、関連援助技術を活用してみよう。事例に沿って検討してみよう。	テキスト、ノートの確認。キーワードの確認。	テキスト、ノート提出したレポート(コピー)、配布プリントなど
第29回 内容	前回のノート確認及び援助者の姿勢を説明できるようにしておく。	半期の復習及び期末テストオリエンテーション	テキスト、ノートの確認。キーワードの確認。	テキスト、ノート提出したレポート(コピー)、配布プリントなど
第30回 内容		まとめ(通年をふりかえり)		

※ 26から28回については、実習とのかねあい等で17回の後に入ることがあります。

* 評価方法

期末テスト、授業内小テスト、課題レポート、自己評価をふまえて評価する。

* 評価基準

欠席が1/5を超えていないことが前提条件。期末テスト50%、小テスト20%、レポート20%、自己評価10%

* テキスト

吉田真理「生活事例からはじめる」相談援助 青踏社

* 参考文献

その都度提示する。日々のニュース、情報、社会での出来事は各自が確認しておくこと。また、テキスト以外に必要ながあれば、各人が好きな社会福祉援助技術関係の本を別途用意しても良い。

【授業概要・到達目標】

小児の特徴を理解し、正しい知識を身につけ、病気の予防、異常の早期発見、基本的な対応、ができる。

【授業のねらい・方法】

保育・保健に関する実践的な知識、技術の習得 演習(学内実習)及び講義

【授業形態】(履修条件)

小児保健Ⅰ履修 演習はグループ単位

【各回の授業計画(内容)】

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容	小児保健Ⅰ復習	オリエンテーション		教科書・ゆさぶられ症候群のリーフレットなど
第2回 内容		妊娠のメカニズム・胎児の成長		
第3回 内容	身体計測の意義について考える	乳幼児の身体計測と評価		教科書
第4回 内容	新生児の扱い方復習	沐浴実習	おんぶ紐・ベビースリング・など利点欠点を知る。	
第5回 内容	バイタルサイン測定	症状に対する看護①	身近な人のバイタルサイン測定・正常値を復習	教科書
第6回 内容		症状に対する看護②		
第7回 内容	自身の予防接種記録確認	予防接種		予防接種に関するQ&A 社団法人最近製剤協会
第8回 内容		病気への対応		教科書
第9回 内容		免疫・母乳育児		教科書
第10回 内容	虫歯予防教育について考える。	歯の健康・食育・栄養		教科書
第11回 内容		小児の観察・心肺蘇生法		赤十字救急法基礎講習教本・幼児安全法講習教本
第12回 内容		応急手当		覚えておこう応急手当 少年写真新聞社
第13回 内容		保育環境・消毒手洗い		
第14回 内容		保育環境・事故予防		保育園における事故予防と危機管理マニュアル 田中哲郎
第15回 内容		まとめ		

*** 評価方法**

レポート提出・テスト

*** 評価基準**

レポート20点 テスト80点

*** テキスト**

改訂 小児保健実習 佐藤益子

*** 参考文献**

表に記載の通り

【授業概要・到達目標】

本講義では、精神保健の概要、発達と精神保健、生活環境と精神保健、こころの問題、精神保健活動、専門機関との連携等を学びます。これらを体系的に学ぶことによって、精神保健の基礎を習得することを到達目標とします。

【授業のねらい・方法】

精神保健を総合的に学習することによって、精神保健の重要性について学びます。講義は原則として教科書を用い、適宜、参考文献等を活用しながら、講義を行います。

【授業形態】(履修条件)

原則、講義形式とし、適宜、質疑応答等の時間を設けることとします。

【各回の授業計画(内容)】

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容	オリエンテーション・精神保健とは	講義の復習		
第2回 内容	教科書p.8-p.18	精神保健の概要Ⅰ	講義の復習	その都度授業内で紹介
第3回 内容	教科書p.18-p.31	精神保健の概要Ⅱ	講義の復習	〃
第4回 内容	教科書p.34-p.53	発達と精神保健Ⅰ	講義の復習	〃
第5回 内容	教科書p.54-p.76	発達と精神保健Ⅱ	講義の復習	〃
第6回 内容	教科書p.78-p.90	生活環境と精神保健Ⅰ	講義の復習	〃
第7回 内容	教科書p.91-p.102	生活環境と精神保健Ⅱ	講義の復習	〃
第8回 内容	教科書p.104-p.116	こころの問題Ⅰ	講義の復習	〃
第9回 内容	教科書p.116-p.129	こころの問題Ⅱ	講義の復習	〃
第10回 内容	教科書p.130-p.142	こころの問題Ⅲ	講義の復習	〃
第11回 内容	教科書p.143-p.155	こころの問題Ⅳ	講義の復習	〃
第12回 内容	教科書p.158-p.176	精神保健活動Ⅰ	講義の復習	〃
第13回 内容	教科書p.176-p.195	精神保健活動Ⅱ	講義の復習	〃
第14回 内容	教科書p.198-p.217	専門機関との連携等	講義の復習	〃
第15回 内容	総復習	まとめ		

* 評価方法

論述試験

* 評価基準

60点以上を合格とする。

* テキスト

「精神保健」(改訂4版・保育士養成講座第4巻)、改訂・保育士養成講座編纂委員会編、全国社会福祉協議会

* 参考文献

授業内で適宜、紹介します。

[授業概要・到達目標]

家族形態の変遷を学び、現代家族を取り巻く社会の現状を把握する。そして、なぜ「子育て支援」が求められるようになったのか理解を深める。

[授業のねらい・方法]

子どもに関する問題として「少子化」「児童虐待」等があげられる。これらの問題について共通しているのは、子育て支援の必要性である。さまざまなデータを基にディスカッションをしながら、保育士として、子育て中の母親にどのような援助が必要なのかを考察する。

[授業形態] (履修条件)

形態：講義を中心にディスカッションをしながら、問題を解明していく。

履修条件：履修条件：保育士資格取得学生は、必修。

[各回の授業計画(内容)]

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容	「核家族」について調べる。	・オリエンテーション ・「サザエさん」の家族からみる、家族形態。	自分の家の家系図を描いてみる。	
第2回 内容	「家族とは？」自分の考えをまとめておく。	・「核家族」、「拡大家族」それぞれの家族形態から見えることを何か。	「家族」の機能についてまとめる。	『家族という関係』 (著)金城清子
第3回 内容	「家制度」について調べる。	・明治期の家族制度から近代家族までの、変遷を知る。	家族形態の変化についてまとめる。	
第4回 内容	「ひのえうま(丙午)」について調べる。	・合計特殊出生率の低下について原因を探る。	授業中に示された調査内容をまとめる。	
第5回 内容		・「未婚率の推移」から見えることは何か。 ・未婚者の結婚意欲。	授業を通して、自分の生き方を、考えてみる。	
第6回 内容	「3歳児神話」・「育児不安」について調べる。	・日本の「女性の年齢階級別労働力率」が表している意味を考察する。 ・有職主婦の抱える問題。	「子育て中の母親が抱える問題」について、まとめる。	『母性愛神話の罫』 (著)大日向雅美
第7回 内容	「NPO」について調べる。	・さまざまな「社会資源」について知る。	身近な社会資源をまとめる。	
第8回 内容		・NPO法人、彩の子ネット製作「お母さんの声に耳をすませて」のビデオ視聴。	自分の地域には、どのような「子育て支援」があるのかをまとめる。	
第9回 内容		・子どもの保育の「担い手」について考える。 ・父親の育児参加の現状。		『臨床に必要な家庭福祉』 (編)宮本和彦
第10回 内容		・「理想の子ども数」と「現実の子ども数」の違う理由について考察する。	子どもは「もつ」のか「授かる」のか、考えてみる。	
第11回 内容	「ファミリーサポートセンター」について調べる。	・子育て中の母親と児童虐待の関係。	児童虐待の定義をまとめる。	
第12回 内容	「児童虐待」との関連機関について調べる。	・児童虐待の事例研究。 ・保育士と関連機関の連携。	虐待の早期発見をするポイントをまとめる。	
第13回 内容	「ケアワーク、ソーシャルワーク」について調べる。	・子どもを養育する責任は誰にあるのかを、ディスカッション。	子育て支援における保育士の役割を、まとめる。	
第14回 内容	「こんな子育てサービスがあったらいいな！」というものを考える。	・子育てサービスについて発表する。 ・それぞれのサービスについて、実現可能か考える。		
第15回 内容		・まとめ	なぜ「子育て支援」が必要なのかをまとめる。	

* 評価方法

筆記試験、提出物、参加意欲等、総合的に評価する。

* 評価基準

筆記テスト90%、事前学習及び提出物10%

* テキスト

必要に応じて資料を配布する。

* 参考文献

必要に応じて紹介する。

養 護 内 容

半期 1単位 必修 受講対象学年2年次

小久保 奈緒美

[授業概要・到達目標]

「養護原理」で学んだ社会的養護の基本的知識と理解を基に、児童福祉施設においてどのように子どもの権利を守り自立を支援しているか、事例などを用いてより具体的に学びます。

子どもとともに生活し、子どもに多大な影響を与える保育士に求められる資質の養成を目指します。

[授業のねらい・方法]

子どもと家族を通して現代社会における児童福祉の役割と課題を理解し、専門職としての保育士に求められる知識と技術を習得することがねらいです。他教科との互換性を持たせ、演習形式で行います。

[授業形態] (履修条件)

「養護原理」の単位を修得していることが望ましい。授業は演習形式、必要に応じて講義も行う。

[各回の授業計画(内容)]

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容	「養護原理」復習	子どもと家族をめぐる諸問題	今回の授業内容の復習	欄外参照
第2回 内容	前回の授業内容の復習	障害のある子どものケア	”	
第3回 内容	”	日常生活の援助		
第4回 内容		心の傷を癒す援助		
第5回 内容		自立への援助		
第6回 内容		家庭・家族への支援		
第7回 内容		里親		
第8回 内容		グループホーム		
第9回 内容		関連機関との連携		
第10回 内容		事例研究1		
第11回 内容		事例研究2		
第12回 内容		事例研究3		
第13回 内容		事例研究4		
第14回 内容		試験(発表)		
第15回 内容		まとめ		

* 評価方法

出席点と授業への参加姿勢(40点)、平常点<小テスト及びレポート>(30点)、期末試験<発表>(30点)

* 評価基準

授業に対する積極的な取り組みを期待します。

* テキスト

『よくわかる養護内容・自立支援』小木曾宏、宮本秀樹、鈴木崇之編 ミネルヴァ書房

* 参考文献

『最新保育資料集』森上史朗編 ミネルヴァ書房 (その他、授業内にて適宜紹介します。)

児童家庭福祉

半期 2単位 必修 受講対象学年1年次

松本峰雄

[授業概要・到達目標]

子ども観の変遷と児童と家庭の福祉の現状、児童福祉に携わる人(特に保育士)やその実践について理解する。

[授業のねらい・方法]

テキストを使用し、その時々児童福祉に関するニュースなども交え、受講生とともに考えていく。

[授業形態](履修条件)

講義形式とし、保育士資格取得学生は必修

[各回の授業計画(内容)]

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容	子どもとは	子ども観の変遷 ①子ども観の変遷	日本および世界の子どもの歴史の認識	
第2回 内容	児童とは	②日本の児童福祉の歩み	日本および世界の子どもの歴史の認識	
第3回 内容	児童とは	③児童家庭福祉の対象	児童とは	
第4回 内容		④現代の子どもをとりまく環境	身近な子どもをとりまく環境	
第5回 内容	児童福祉法について調べる	児童福祉の機関・法律 ①児童福祉法	児童とは(児童福祉法による)	
第6回 内容	児童福祉法について調べる	②児童家庭福祉に関わる行政	国・都道府県・市町村の行政	
第7回 内容	児童福祉法について調べる	③児童家庭福祉の実施機関	児童相談所・保健所等の理解。 児童福祉施設(14種類)の役割	
第8回 内容	子育て支援の必要性を調べる	児童家庭福祉の現状と課題 ①子育て支援	児童福祉法と子育て支援	
第9回 内容		②母子保健の施策	児童福祉法と母子保健	
第10回 内容	保育問題について調べる	③保育問題と施策	児童福祉法と保育問題	
第11回 内容		④その他の児童家庭福祉の施策	児童福祉法の理解	
第12回 内容	保育士の仕事等について調べる	児童家庭福祉に携わる人々 ①児童福祉における専門職とは	保育士の仕事等、専門職の理解	
第13回 内容	倫理とは	②児童福祉と倫理	保育士の倫理について調べる	
第14回 内容	保育士の職務について調べる	児童福祉におけるケア・ワーク	保育士のケア・ワークの内容を理解する	
第15回 内容	まとめ(保育所の相談援助) 試験			

* 評価方法

欠席及び遅刻は減点、課題の提出、試験の総合評価

* 評価基準

試験は100点満点、欠席1回につき5点減点、課題を忘れると1回につき5点減点

* テキスト

『保育者のための子ども家庭福祉』 萌文書林 松本峰雄著 1,800円

* 参考文献

『保育小六法』(中央法規)・『最新保育資料集』(ミネルヴァ書房)は購入したほうがよい。

[授業概要・到達目標]

社会的養護が必要な、子どもの背景を理解する。社会的養護の体系や、児童福祉施設の現状を知り、施設養護としての保育士の役割を学ぶ。

[授業のねらい・方法]

ビデオ視聴を取り入れながら、社会的養護の体系やその歴史を学ぶ。現代の子どもを取り巻く社会的問題と家庭に代わる社会的養護の必要性を理解するとともに、児童福祉施設の種類と目的の認識を深める。

[授業形態] (履修条件)

講義形式を中心に、ビデオ視聴を取り入れ授業を展開していく。

保育士資格取得学生は受講すること。

[各回の授業計画(内容)]

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容	シラバスを読む(当日シラバス持参)	・オリエンテーション。 ・児童福祉施設の種類を知る。	・子どもにとって「親」は、どんな存在か考える。	
第2回 内容	「養護」について調べる。	・「養護」の必要性を考える。 ・自分を知る。	・「養護」についてまとめておく。	・「児童福祉施設一覧表」を持参
第3回 内容		・児童福祉法における「児童」の年齢区分。	・年齢区分を覚える。	
第4回 内容		・社会的養護の法体系(世界人権宣言・児童憲章等)	・児童福祉法第1条を覚える。	『子どもの権利条約』(編)日本子どもを守る会
第5回 内容	「石井十次」について調べる。	・児童養護の歴史を学ぶ。	・石井十次・石井亮一・留岡幸助についてまとめる。	福祉に生きる9『アーノルド・トインビー』(著)高島進
第6回 内容	「里親」について調べる。	・児童養護の体系を学ぶ。	・「児童養護」の体系が書けるようにする。	『里親制度と地域社会』(著)木村たき子
第7回 内容		・施設養護の基本原則	・5つの基本原則を理解する	
第8回 内容	「子ども虐待」の記事を調べる(新聞、雑誌より)。	・近年の社会問題と、児童養護施設との関連。	・「虐待」における4つの定義をまとめる。	『IT(それ)と呼ばれた子』(著)デイヴ・ベルザー
第9回 内容		・被措置児童等の虐待防止		
第10回 内容		・施設養護の実際		『子どもが語る施設の暮らし』(編)子どもが語る施設の暮らし
第11回 内容		・施設養護とソーシャルワーク		
第12回 内容		・施設等の運営管理		『少女たちの迷走』(著)小林英義
第13回 内容		・倫理の確立		『障害を輝きにかえて』(著)袴塚里絵 福祉に生きる8『木憲次』(著)村田茂
第14回 内容		・社会的養護と地域福祉		『太陽のうた』(著)三枝義浩
第15回 内容	ファイルの提出	・まとめ		

* 評価方法

筆記試験、提出物等、総合的に評価する。

* 評価基準

筆記試験90%、ファイルの提出10%(その他提出物等を含む)

* テキスト

『子どもの養護－養護原理・養護内容－』建帛社 松本峰雄(編著)

必要に応じてプリントを配布する

* 参考文献

『社会福祉小六法』他

[授業概要・到達目標]

保育の専門職者としての自覚を持ち、多様性に富んだ保育状況や環境への柔軟な対応を広い視野から考えられる姿勢の習得を目指す。

[授業のねらい・方法]

保育者の役割と倫理、協働について理解する。

保育士の制度的位置づけ、専門性について理解する。

[授業形態](履修条件)

講義を中心にしながら、グループディスカッションやグループ発表も取り入れる。

[各回の授業計画(内容)]

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容	シラバスを読む	オリエンテーション	授業内容をまとめる	
第2回 内容	授業テーマについて予習する	保育者の役割と倫理	授業内容をまとめる	
第3回 内容	"	保育士の制度的位置づけ	授業内容をまとめる	
第4回 内容	"	養護と教育	授業内容をまとめる	
第5回 内容	"	保育士の資質・能力	授業内容をまとめる	
第6回 内容	"	知識・技術及び判断	授業内容をまとめる	
第7回 内容	"	保育の省察	授業内容をまとめる	
第8回 内容	"	保育課程による保育の展開と自己評価	授業内容をまとめる	
第9回 内容	"	保育と保護者支援にかかわる協働	授業内容をまとめる	
第10回 内容	"	専門職間及び地域社会との協働	授業内容をまとめる	
第11回 内容	"	保護者及び地域社会との協働	授業内容をまとめる	
第12回 内容	"	家庭的保育者等との連携	授業内容をまとめる	
第13回 内容	"	専門性の発達	授業内容をまとめる	
第14回 内容	"	生涯発達とキャリア形成	授業内容をまとめる	
第15回 内容	総復習をする	まとめ	授業内容をまとめる	

* 評価方法

定期試験とレポートで総合的に評価する。

* 評価基準

定期試験70% レポート30%

* テキスト

なし

* 参考文献

保育所保育指針、幼稚園教育要領

[授業概要・到達目標]

本科目では、子どもの心身の発達と保育実践について理解を深めることを目的とする。

授業の概要は、園生活や遊びの中で、子ども自らがさまざまな経験を通して人間形成がされていく過程を理解し、一人ひとりに応じた発達援助のあり方を学ぶ。

[授業のねらい・方法]

授業のねらいは、子どもの心理の理解を深め、子ども理解を図ることである。

授業方法は、理論と実践からの講義、およびグループディスカッションから行なう。

[授業形態] (履修条件)

講義とグループディスカッションを通して、自ら学ぶことが第一の履修条件である。

[各回の授業計画(内容)]

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容	第2回より「〇〇とは何か」という課題を事前学習とする。	オリエンテーション: (1) 授業の進め方について (2) 子どもの心理とは	授業で学んだことを見直し、疑問点を調べて次の授業に備える。	「幼稚園教育要領」 「保育所保育指針」
第2回 内容	発達過程とは何か	個人差や発達過程に応じた保育	↓	↓
第3回 内容		子どもの内面的な理解と保育		
第4回 内容		他者の心の理解		
第5回 内容	遊びとは何か	子どもの発達と遊び(1)		
第6回 内容		子どもの発達と遊び(2)		
第7回 内容	個の育ちとは何か	子ども集団と保育の環境(1)		
第8回 内容	集団の育ちとは何か	子ども集団と保育の環境(2)		
第9回 内容	生きる力とは何か	生涯にわたる「生きる力」の基礎		
第10回 内容	援助とは何か	発達の課題に応じた援助		
第11回 内容	発達とは何か	発達の多様性(1) 発達の個人差		
第12回 内容	・気になる子の理解	発達の多様性(2) 子どもの行動の理解		
第13回 内容	と相互理解	発達の多様性(3) 保護者との相互理解		
第14回 内容	関連の新聞記事などを持参	現代社会における子どもの発達と保育の課題	学習のまとめを行なう	
第15回 内容		発達援助における協働:まとめ	↓	

* 評価方法

子どもの心理に関する基本的な知識についてのレポート、討論参加、試験によって総合評価する。

* 評価基準

討論参加(30点)・レポート(20点)・試験(50点)による総合評価

* テキスト

特に指定はない

* 参考文献

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」・無藤隆、岩立京子「乳幼児心理学」北大路書房

子どもの保健 I

通年 4単位 必修 受講対象学年1年次

平川 智子・佐藤 壽子

[授業概要・到達目標]

それぞれの子どもが持つ発育・発達的能力を促す育児(保育)のために、子どもを保健学的に理解し、理論に基づいた実践が出来ることを目的とする。

[授業のねらい・方法]

- 1) 子どもの誕生(命とは、命を育む母体 出産、)子どもが持つ生命力と脆弱さについて学ぶ。(保護・養護の必要性)
- 2) 子どもの育つ環境(家庭・地域・社会)が子どもに与える影響を学ぶ。
- 3) 健康的な子どもの生活の権利保障について考える。
- 4) 子どもを護る社会の仕組み(保健・医療・福祉)を学ぶ。
- 5) 子どもの保健の歴史と現状の問題と課題について学ぶ。
- 6) 一人の人格として、子どもの生きようとする力が発揮続けられるよう、病気や障害の予防、及び生涯にわたる健康の保持増進の保健行動の基礎を身につけ、自立力育成の理論と実践方法を学ぶ。

[各回の授業計画(内容)]

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容		オリエンテーション 生命の誕生(DVD) ・命を育む母性、誕生した児の生命力を通じて、 子どもの保健活動の意義と目的を理解する ①「私が赤ちゃんだった頃」レポート		
第2回 内容		誕生した子どもが育つ環境 ・ヒトから人間への成長を理解する		
第3回 内容	「児童の権利とは」	保育をめぐる社会の動き ・児童福祉法、母子保健法を根拠とする地域保健福祉活動、児童の権利に関する条約を学ぶ(事前学習発表)		
第4回 内容	「健康とは」	「健康とは」(事前学習発表) わが国の子どもの保健衛生の歴史と変遷について学ぶ	①の提出	
第5回 内容		母子保健対策と保育 ・母子保健サービスについて学ぶ		
第6回 内容		・「私が赤ちゃんだった頃」発表 多様な子どもの発育・発達を知り、子どもの発育・発達の特徴を学ぶ		
第7回 内容		周産期と新生児期(生後28日)の赤ちゃん ・出産前後の母親の心身の健康、赤ちゃんの生活と養育について学ぶ	②乳幼児の体の構造・機能と青年期の体の構造・機能を絵にする	
第8回 内容		課題②の作成	②継続	
第9回 内容		課題②の学習発表 ・「乳児・幼児の生理機能の発達と観察」のまとめ -未熟から成熟への過程での養護の必要性を学ぶ-		
第10回 内容	「発育・発達等の検査の種類」	乳幼児の身体の発育と評価、発育を促進する援助および精神運動発達の観察・評価と発達を促進する援助の方法を学ぶ		
第11回 内容	「子どもと遊び」	・「子どもと遊び」(事前学習発表) ・知的行動の発達を知る		
第12回 内容		基本的な生活習慣の自立① ・生活リズムと発達に対応した生活習慣確立への支援方法を学ぶ		
第13回 内容		基本的な生活習慣の自立② ・生活リズムと発達に対応した生活習慣確立への支援方法を学ぶ		
第14回 内容		子どもの健康状態の把握と主な疾病の特徴 ・健康状態の観察方法を学ぶ		
第15回 内容		前期授業のまとめ		
第16回 内容		子どもの病気の考え方 ・病気の特徴と注意事項について学ぶ		
第17回 内容		症状から見た病気とケア ・生活環境の変化による病気について知る		
第18回 内容	「感染症の原因」	・子どもの疾病とその予防と適切な対応を知る ・子どもの感染性疾患と原因について(事前学習発表)		

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第19回 内容	「母子健康手帳から予防接種の種類」	感染性疾患の予防 ・免疫と予防接種について学ぶ		
第20回 内容		子どもの生活環境と精神保健 ・子どもが育つ環境について学ぶ		
第21回 内容	「心の健康と遊び」	子どもの心の健康とその課題 愛着形成・相互作用・個と集団遊び・ごっこ遊びについて考える		
第22回 内容		保育環境整備と保健 地域の子育て家庭を支援する保育所の役割と実態を知る		
第23回 内容		保育所現場における衛生管理 水・厨房・食材の管理・マイタオル・プールの水質管理・手洗い・職員の健康診査について知る		
第24回 内容	「子どもに多い事故」	保育現場における事故防止及び安全対策並びに危機管理 死亡の動向と事故防止を考える 子どもに多い事故（発表）		
第25回 内容		子どもの保健からテーマを選び健康教育を実践する グループによる教材作成		
第26回 内容		グループによる教材作成		
第27回 内容		発表会		
第28回 内容		職員間の連携と組織的取り組み 子どもの保健を支える人々を知る		
第29回 内容		家庭・地域・専門機関との連携 連携の方法を学ぶ		
第30回 内容		後期授業のまとめ		

* 評価方法

授業態度 前期・後期試験 課題レポート 演習態度で評価

* 評価基準

態度10% 前後試験80% 課題レポート10% 合計60%以上を合格とする

* テキスト

子どもの保健 ―理論と実践― 著者天野敦子他 日本小児医事出版社
新刊「図表で学ぶ子どもの保健」著者 加藤忠明他 建帛社 母子健康手帳

* 参考文献

母子保健マニュアル 改訂7版 著者 高野陽他 南山堂
看護形態機能学 著者菱沼典子 日本看護協会出版会 他

[授業概要・到達目標]

小児期における食生活の経験は生涯の健康に深くかかわることを認識し、食・栄養の基礎知識を理解するとともに、子どもたちの発達に即した保育現場のスキルを習得する。また、学習後は乳幼児の食生活について適確な助言および支援ができるようになり、自己の食生活も向上させ、保育実習では適切な食生活の援助ができるようになることを到達目標とする。

[授業のねらい・方法]

1. 栄養素の基本を学び、乳幼児期、学童期の栄養について演習を通して知識と技術を身につけ、生涯にわたる食生活の基礎を理解する。子どもの食環境に関心を持ち、保育の現場及び家庭、地域で実践できる食の指導を考える。子どもの疾病及び体調不良の症状に応じた食生活について理解を深める。
2. 学んだことが保育の場でスムーズに活用できるよう、授業内容の要点をプリントにまとめさせ、演習についても実践に役立つように記録をさせる。テキストで確認し、前回の学習を復習させることで基本の定着を図る。
3. 楽しく主体的に演習し、学生自らの体験を充実させることで、子どもたちに食の楽しさを教えるヒントをつかみ、食の活動を促す要領を学ぶ。

[授業形態] (履修条件)

講義、演習をおりまぜて知識とスキルの両面から習得させる。グループによる演習を通して、現場での動き、手順、段取り、モノや時間の管理、役割分担等を体験し、将来保育に携わる者としての連携・協力・主体的参加の要領を身につけさせる。

[各回の授業計画(内容)]

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容	シラバスを通読する	【子どもの心身の健康と食生活】 ・日本人の健康及び食生活の問題を考える。 ・子どもの食習慣形成について考え、世界の食生活の実態に気付く。	プリントを完成し、子どもの食生活に関心を持つ	『国民健康・栄養調査』厚生労働省
第2回 内容	食の話題を新聞等で見つける	【子どもの食生活の現状と課題】【食育のための環境】 ・子どもを取り巻く食環境についてグループディスカッション。→発表 ・栽培計画について確認し、当番を決める。	発表内容を整理する	『食環境と健康』第一出版
第3回 内容	前回の発表を振り返る	【栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能】 ・食品の分類、栄養素の意味と体内での機能について知る。	プリントで確認し食品に関心を持つ	『好きになる栄養学』講談社
第4回 内容	前回の内容を復習する	【栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能】 ・糖質について理解する。	プリントを完成し、内容を把握する	『好きになる栄養学』講談社
第5回 内容	前回の内容を復習する	【栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能】 ・脂質について理解する。	プリントを完成し、内容を把握する	『好きになる栄養学』講談社
第6回 内容	前回の内容を復習する	【栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能】 ・たんぱく質について理解する。	プリントを完成し、内容を把握する	『好きになる栄養学』講談社
第7回 内容	前回の内容を復習する	【栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能】 ・ビタミン、無機質について理解する。	プリントを完成し、内容を把握する	『好きになる栄養学』講談社
第8回 内容	前回の内容を復習する	【栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能】 ・フィトケミカルと水分摂取について知る。 ・エネルギー発生と消費の意味を考える。	プリントを完成し、内容を把握する	『好きになる栄養学』講談社
第9回 内容	前回の内容を復習する	【食事摂取基準と献立作成・調理の基本】 ・食事摂取基準の意義を理解し、各自の食事摂取基準を調べる。食事バランスシートに記入し、バランスガイドの活用法について考察する。	各自一日分の食事記録をつける	『食事バランスガイド』第一出版
第10回 内容	乳汁栄養に関心を持つ	【乳児期の授乳・離乳の意義と食生活】 ・母乳栄養について成分を調べ理想的な栄養であることを理解する。	プリントを完成し、内容を把握する	『母乳育児支援ガイド』医学書院
第11回 内容	前回の内容を復習する	【乳児期の授乳・離乳の意義と食生活】 ・人工栄養・混合栄養について理解する。	プリントを完成し、内容を把握する	『授乳・離乳の支援ガイド実践の手引き』母子保健事業団
第12回 内容	調乳方法をテキストで予習する	【乳児期の授乳・離乳の意義と食生活】 ・調乳実習をおこなう。無菌操作法による消毒、調乳、授乳の技術を習得する。	演習記録を作成する	『授乳・離乳の支援ガイド実践の手引き』母子保健事業団
第13回 内容	収穫を楽しみ調理方法を確認する	【食育の実践】 ・栽培した野菜を調理することで子どもに食の体験をさせるプログラムを実践する。	演習記録を作成する	『ジャガイモ料理のレシピ』適宜
第14回 内容	離乳に関心を持つ	【乳児期の授乳・離乳の意義と食生活】 ・離乳の意義を考え開始から完了までの方法を理解する。	プリントを完成し、内容を把握する	改訂『離乳の基本』母子保健事業団
第15回 内容	プリントの復習	【プリント資料類の復習・小テスト】 前回までのまとめを行い、小テストをする。		
第16回 内容	第14回の内容を復習	【乳児期の授乳・離乳の意義と食生活】 ・離乳食作り及び保育士の供与の仕方の留意点を学び、ベビーフードについても活用法を考察する。 ・乳児期の栄養上の問題と健康への対応を考える。	プリントを完成し、内容を把握する	改訂『離乳の基本』母子保健事業団

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第17回 内容	調理の手順を把握する	【乳児期の授乳・離乳の意義と食生活】 ・離乳初期の調理形態、味付けの有無、食べさせ方の技術を習得する。 ・市販品と比較する。	演習記録を作成する	『初歩からわかる離乳食』芽ばえ社
第18回 内容	調理の手順を把握する	【乳児期の授乳・離乳の意義と食生活】 ・離乳中期、後期の調理形態、味付け、食べさせ方の技術を習得する。 ・市販品と比較する。	演習記録を作成する	『初歩からわかる離乳食』芽ばえ社
第19回 内容	幼児期の食生活に関心を持つ	【幼児期の心身の発達と食生活、学童期の心身の発達と食生活】 ・幼児期の食生活の実践と間食の意義・実践を学び、栄養上の問題と健康への対応を考える。	プリントを完成し問題点の解決方法を考える	『好きになる栄養学』講談社
第20回 内容	学童期の食生活に関心を持つ	【幼児期の心身の発達と食生活、学童期の心身の発達と食生活】 ・学童期の食生活の実践を学び、栄養上の問題と健康への対応を考える。 ・幼児期、学童期の問題解決のための食事を工夫する。	次回の演習のための調理穂法と食材を調べる。	『好きになる栄養学』講談社 『各種レシピ』適宜
第21回 内容	調理方法を把握する	【幼児期の心身の発達と食生活、学童期の心身の発達と食生活】 ・幼児期、学童期の問題解決のための食事を工夫し、実習する。	演習記録を作成する	『各種レシピ』適宜
第22回 内容	成人期、高齢期の食に関心を持つ	【生涯発達と食生活】 ・成人期、高齢期の食生活の問題と健康への対応について考える。	プリントを完成し、内容を把握する	『応用栄養学』南山堂 『ライフステージの栄養学』朝倉書店
第23回 内容	前回の復習をする	【食育における養護と教育の一体性、食育の内容と計画及び評価、食育のための環境】	プリントを完成し、内容を把握する	『体験・実践・事例に基づく保育内容「環境」』保育出版社
第24回 内容	前回の内容を復習する	【地域の関係機関や職員間の連携、食生活指導及び食を通じた保護者への支援】	プリントを完成し、内容を把握する	『事例から学ぶ子どもを育む母親援助の実際』保育者
第25回 内容	前回の内容を復習する	【家庭における食事と栄養】	プリントを完成し、内容を把握する	『事例から学ぶ子どもを育む母親援助の実際』保育者
第26回 内容	前回の内容を復習する	【児童福祉施設における食事と栄養】 施設の給食の実際を知り、実習に向けて指導方法を習得する。	プリントを完成し、内容を把握する	『保育園の食事&健康だより』芽ばえ社
第27回 内容	前回の内容を復習する	【疾病及び体調不良の子どもへの対応】 症状に合わせた食事について理解する。	プリントを完成し、内容を把握する	『子どもの健康・食事Q&A』第一出版
第28回 内容	前回の内容を復習する	【食物アレルギーのある子どもへの対応】 アレルギーのしくみについて知り、保育の現場における対処方法を理解する。	プリントを完成し、内容を把握する	『好きになる生理学』 『好きになる免疫学』講談社
第29回 内容	前回の内容を復習する	【障害のある子どもへの対応】 症状に合わせた食事や食べる時の援助技術について、食食用自助具も使いながら考察する。	食食用自助具種類を調べる	『食べる機能をうながす食事』医歯薬出版
第30回 内容	プリントを復習	【プリント資料類の編集・試験】 プリントの加除修正を行う。試験をする。		

* 評価方法

提出物、レポート、試験により総合的に評価。

* 評価基準

提出物10点、レポート20点、試験70点

* テキスト

「子育て・子育てを支援する 小児栄養」堤ちはる・土井正子 編著 萌文書林

* 参考文献

上記以外に「五訂増補 食品成分表」

4月6日(水)に千葉敬愛短期大学ホームページにて公開致します。

[授業概要・到達目標]

乳児保育では、0・1・2歳児の発達の特徴を十分に理解すると共に、人間形成の上で大切な乳幼児期の育ちに関わる保育者として、養護・教育・生活面の対応等について基本を学ぶ。

[授業のねらい・方法]

乳児保育の意義、目的、発達、保健的生活、人的・物的環境、保育の評価、今日的な課題など多様な内容を含む。理論の理解を基に事例を多く取り入れ、講義・演習を交えて学習を進める。

[授業形態](履修条件)

基本的には講義が中心となる。内容により演習・グループ討議を取り入れる。

[各回の授業計画(内容)]

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容		人間発達における乳児期の意味について学ぶ。胎児期・新生時期・乳児期の能力について	乳児の姿や行動に関心を向ける。子どもに関する情報に注意を向ける。	
第2回 内容		乳児期の発達の特徴・発達の道筋・個人差について	同上	保育所保育指針
第3回 内容	各月齢年齢の発達資料	0・1・2歳児を支える養育者の関わり、出生～3ヶ月の発達の特徴について	新生児の生得的な能力を知らべる。	各年齢の発達表
第4回 内容		3ヶ月～6ヶ月未満児の発達の特徴・6ヶ月～1才3ヶ月未満児の発達の特徴と養育者の対応について	発達の特徴を整理する	各年齢の発達表
第5回 内容		1才3ヶ月～2歳未満児・2～3歳未満児の発達の特徴と養育者の対応		各年齢の発達表
第6回 内容	各自の愛着体験をレポートする	愛着関係と自我の育ち・愛着と共生関係について (レポートの提出)	関りや会話等日常出会う親子の観察をする。	愛着体験レポートの分析
第7回 内容		言葉の獲得と自我の芽生えについて0歳～1才3ヶ月	同上	
第8回 内容		1～2歳児の言葉と自我の育ち	同上	
第9回 内容	保育指針総則の熟読	親と共にすすめる育児について保育所における養護の意味と内容	愛着の体験を振り返る。	
第10回 内容		養護について具体的に学ぶ。演習 抱っこ・おんぶ・着脱・排泄		抱っこ・おんぶ等の実際
第11回 内容		健康安全への配慮について健康観察・事故への対応と防止		事故の事例からも学ぶ
第12回 内容		からだ育て・心育ちの食育について保育所の給食について		食育の資料
第13回 内容		生活習慣の自立について・環境づくり		
第14回 内容	児童福祉施設に関心を持つ	乳児院の現況について資料から学ぶ。乳児期の保育・養護について確認する	乳幼児に関する現況と社会的な問題に関心を持つ。	乳児院のレポート資料
第15回 内容		乳児期の発達の特徴について確認する	手作り玩具の演習について	前期の学びの確認資料 計画書の配布
第16回 内容	保育指針の確認(保育内容)	遊びと環境について0・1・2歳児の遊びと心の発達、遊びを育む大人の役割りを学ぶ		各月齢年齢の発達表
第17回 内容	同	出生～6ヶ月、6ヶ月～1歳3ヶ月、の遊びの特徴と保育者の対応	出会った子どもの様子を観察する。	
第18回 内容	同	1才3ヶ月～2歳、2歳～3歳の遊びの特徴と保育者の対応	出会った子どもの様子を観察する。	
第19回 内容		0・1・2歳児の発達と遊びについてのビデオ視聴とレポート提出		レポートの確認
第20回 内容	対象の年齢を想定し遊具を作る	手作り玩具の発表(演習)	子どもの発達に添った遊具を保育者が作る意義を理解する。	計画書提出
第21回 内容		友達への関心と社会性の育ち人と関わる過程の保育者の対応		
第22回 内容		家庭的な雰囲気について及びその環境構成について		

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第23回 内容		0・1・2歳児の自発活動を促す環境構成について		保育室の環境のビデオ視聴
第24回 内容		乳児保育の担当制の意義・職員のチームワーク 保護者との関わり	愛着関係を築く視点からも担当制を理解する。	
第25回 内容		保育記録の重要性と記録の種類・書き方・評価の要点について	他の授業よりの学びも参考にする。	
第26回 内容		保育課程に基づく指導計画作成の要点・乳児期の個別配慮について	他の授業よりの学びも参考にする	資料から学ぶ
第27回 内容	子育てに関する問題や報道に目を向ける	保護者との連携・信頼関係を築く保育者のあり方と対応について 育児支援について		事例から学ぶ
第28回 内容		保護者とのトラブルを未然に防ぐ対策・対応のあり方について		事例から学ぶ
第29回 内容	施策の資料や報道に目を向ける	保育所が担う子育て支援の現状・保育の動向と関係機関とのネットワーク 乳児保育の現状と今後の課題	新聞やTV等での子どもに関する報道に注意を向ける。	資料より歴史的視点も学ぶ
第30回 内容		乳児保育の大切な内容の確認	学習した内容の整理と確認。	テキスト・資料の確認

*** 評価方法**

定期試験と演習を総合して評価する。

*** 評価基準**

定期試験80パーセント、課題レポート・演習20パーセント

*** テキスト**

今求められる質の高い「乳児保育の実践と子育て支援」 榎原洋一・今井和子編書 ミネルヴァ書房

*** 参考文献**

保育所保育指針

見る・考える・創り出す「乳児保育」CHC子育て文化研究所編 萌文書林

乳児院の現状についてのレポート

保育実習指導 I (保育所)

半期 1単位 必修 受講対象学年1学年

桑原逸美・杉浦廣子
守屋ふみ子・岩井陽子
望月道代

[授業概要・到達目標]

保育所の機能や役割、保育士の職務内容や保育の内容について理解を深め、保育士としての心構えをしっかりと身につけて実習に臨めるようにする。

[授業のねらい・方法]

保育実習の意義・目的を理解し、効果的に「保育実習」を行うために、子どもの心身の発達の様子、生活や遊び等の専門知識や具体的技術を習得する。

[授業形態] (履修条件)

講義形式を中心とし、演習の場も取り入れる。

[各回の授業計画(内容)]

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容	シラバスを読んでおく	オリエンテーション・保育所実習の意義・目的	授業内容を復習する	
第2回 内容	テキストを読んでおく	保育とは・保育者の資質と役割	授業内容を復習する	
第3回 内容	テキストを読んでおく	実習の心得・実習段階と内容	授業内容を復習する	
第4回 内容		実習時の諸注意と提出書類について	授業内容を復習する	
第5回 内容	テキストを読んでおく	子どもの理解と保育者	授業内容を復習する	
第6回 内容	質問があれば考えておく	2年生の体験発表・レポート	自己課題を明確にする	
第7回 内容	テキストを読んでおく	保育所実習の基礎知識	授業内容を復習する	
第8回 内容		オリエンテーション	授業内容を復習する	
第9回 内容	保育指針を読んでおく	子どもの発達と安全	授業内容を復習する	
第10回 内容	材料を準備する	制作	制作を進める	
第11回 内容	材料を準備する	制作・発表	制作を完成させる	
第12回 内容	資料を読んでおく	保育所実習の心構え	授業内容を復習する	
第13回 内容	実習記録をよく見ておく	実習記録の書き方	授業内容を復習する	
第14回 内容	実習に関して不明な点を明確にしておく	実習前オリエンテーション	授業内容を復習する	
第15回 内容		まとめ		

* 評価方法

定期試験・提出物等総合的に評価する。

* 評価基準

定期試験80% 提出物20%

* テキスト

教育・保育・施設実習の手引き(健帛社 松本峰雄編著)

* 参考文献

保育所保育指針

保育実習指導 I (施設)

半期 1単位 必修 受講対象学年1学年

藤 京子・山本 陽子

[授業概要・到達目標]

保育実習(施設)の意義目的を理解する。児童福祉施設および障害者施設の概要や日常生活を知るなかで、保育士としての役割を習得する。

[授業のねらい・方法]

ビデオ視聴を取り入れ、施設の現状を把握しつつ実習生としての心構えを身につける。施設の種別ごとにグループをつくりプレゼンテーションをおこなうと共に、各自で「施設実習ファイル」を作成する。

[授業形態](履修条件)

演習を中心とするが、講義も取り入れながらおこなう。

保育士取得学生は受講すること。

プレゼンテーション等は、各自意欲を持って取り組むことを望む。

[各回の授業計画(内容)]

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容		オリエンテーション		
第2回 内容		実習の目的と概要	実習の意義を確認する	
第3回 内容		実習の内容		
第4回 内容	「人権」について調べる	子どもの人権と最善の利益の考慮		
第5回 内容		プライバシーの保護と守秘義務	守秘義務について理解を深める	
第6回 内容		実習生としての心構え		
第7回 内容	乳児院について調べる	養育環境に問題のある児童のための施設(I) 内容と課題の明確化	プレゼンテーションの資料を ファイルする	
第8回 内容	児童養護施設について調べる	養育環境に問題のある児童のための施設(II) 内容と課題の明確化	プレゼンテーションの資料を ファイルする	
第9回 内容	母子生活支援施設について調べる	養育環境に問題のある児童のための施設(III) 内容と課題の明確化	プレゼンテーションの資料を ファイルする	
第10回 内容	肢体不自由児施設について調べる	情緒・行動に問題のある児童のための施設 内容と課題の明確化	プレゼンテーションの資料を ファイルする	
第11回 内容	重症心身障害児施設について調べる	心身に障害をもつ児童のための施設(I) 内容と課題の明確化	プレゼンテーションの資料を ファイルする	
第12回 内容	知的障害児(者)について調べる	心身に障害をもつ児童のための施設(II) 内容と課題の明確化	プレゼンテーションの資料を ファイルする	
第13回 内容		実習における計画と実践		
第14回 内容		実習における観察・記録・評価		
第15回 内容		実習の総括と自己理解		

* 評価方法

プレゼンテーション内容・提出物等、総合的に評価をする

* 評価基準

プレゼンテーション40点 各自作成した「施設実習ファイル」50点 その他

* テキスト

新版「教育・保育・施設実習の手引き」松本峰雄(編)建帛社

必要に応じて資料を配布する

* 参考文献

授業内で適宜紹介をする

[授業概要・到達目標]

教育者・保育者として必要な基本的な臨床心理の知識の習得と、自己理解の中で生じた気づきを通しカウンセリンマインドを培うことを目的としている。

[授業のねらい・方法]

臨床心理学の入門として様々な心理技法に触れる。自己に対する気づきを深め、そのプロセスを十分に体験することで、他者の心に寄り添う視点を意識化していく。その都度自分で得た体験を振り返りまとめる。

[授業形態] (履修条件)

基本的に講義形式が中心であるが体験を通して学ぶことを重視する。

[各回の授業計画(内容)]

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容	教科書 p1～p8 を読んでおく	臨床心理学とは何か。子供めぐる今日的な課題について。		
第2回 内容	教科書 p14～p39 を読んでおく	フロイトの精神分析理論	防衛機制について感じたことをまとめる。	鈴木晶「図説フロイト」河出書房新社
第3回 内容	教科書 p46～p53 を読んでおく	フロイトからの分派(A.アドラーの劣等コンプレックスと権力への意志、C.Gユングの分析心理学について)	集合的無意識とグリム童話のつながりを考えてみる。	林道義「図説ユング」河出書房新社
第4回 内容		ユングの分析心理学と心理療法	感想をまとめる	フォン・フランツ「永遠の少年」ちくま学芸文庫 エイミー・ミンデル「メタスキル」コスモスライブラリー
第5回 内容	教科書 p56～p62 を読んでおく	フロイト以後(M.クラインの対象関係論、D.W.ウィニコットと子どもの遊びについて)・スクイグルを築るためクレヨンを用意する	スクイグルをしての振り返りをまとめる。	松木邦裕「対象関係論を学ぶ」岩崎学術出版社
第6回 内容	教科書 p83～p95 を読んでおく	ロジャーズ理論と来談者中心療法について	自己理解のための振り返りをまとめる。	自己理解のための振り返りをまとめる。
第7回 内容	教科書 p99～p102 を読んでおく	来談者中心療法の発展(フォーカシング体験①)		アン・コーネルワイザー「やさしいフォーカシング」コスモスライブラリー
第8回 内容		来談者中心療法の発展		(フォーカシング体験②)ユージン・ジェンドリン「セラピープロセスの小さな一歩」
第9回 内容	教科書 p129～p141 を読んでおく	認知行動療法(A.エリスABC理論と思い込みの修正)	自己理解のための振り返りをまとめる。	
第10回 内容	教科書 p119～p120 を読んでおく	身体をリラックスさせる(自律訓練法を学ぶ)	自律訓練法を復習し身につける。	
第11回 内容		身体をリラックスさせる(ドゥードゥリング)クレヨンを用意する	自己理解のための振り返りをまとめる。	
第12回 内容		緊急支援について	自己理解のための振り返りをまとめる。	
第13回 内容		心の病①	プリントを読み復習しておく。	下山晴彦「わかりやすい臨床心理学」ミネルヴァ書房
第14回 内容	プリントを読んでおく	心の病②	プリントを読み復習しておく。	下山晴彦「わかりやすい臨床心理学」ミネルヴァ書房
第15回 内容	プリントを読んでおく	心の病③	プリントを読み復習しておく。	下山晴彦「わかりやすい臨床心理学」ミネルヴァ書房

* 評価方法 試験、出席態度、課題提出からの総合評価

* 評価基準 試験80点、課題提出や出席態度20点とする。

* テキスト 窪内・吉武著 心理療法の基礎 培風館

* 参考文献 鈴木晶「図説フロイト」河出書房新社 林道義「図説ユング」河出書房新社 松木邦裕「対象関係論を学ぶ」岩崎学術出版社
諸富祥彦「カール・ロジャーズ入門」コスモスライブラリー アン・コーネルワイザー「やさしいフォーカシング」コスモスライブラリー
ユージン・ジェンドリン「セラピープロセスの小さな一歩」金剛出版 下山晴彦「わかりやすい臨床心理学」ミネルヴァ書房

[授業概要・到達目標]

実習、就職後の保育の現場で、直接的にも間接的にも、子ども達により良い遊び文化を伝えられるよう、体験的に学習し、理解を深める。
日本の文化だけでなく、世界の子ども文化にも触れ、保育者としての視野を広げる。

[授業のねらい・方法]

児童文化財の制作、指導案作成、発表、評価といった一連の保育の流れを学習する。
クリスマスなどの日本でも一般的になった世界の文化に着目し、その文化財の制作に取り組む。

[授業形態] (履修条件)

講義、制作、発表

[各回の授業計画(内容)]

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容		オリエンテーション		プリント
第2回 内容	資料収集・制作の準備	エプロンシアター作成	作業を進める	
第3回 内容		エプロンシアター作成	作業を進める	
第4回 内容		エプロンシアター作成	作業を進める	
第5回 内容		エプロンシアター作成	作業を進める	
第6回 内容		エプロンシアター作成	作業を進める	
第7回 内容		エプロンシアター作成	作業を進める	
第8回 内容		エプロンシアター作成	作業を進める	
第9回 内容		様々な絵本文化		プリント
第10回 内容	資料収集	世界の児童文化		プリント
第11回 内容	制作の準備	アドベントカレンダー 制作		
第12回 内容	発表の準備(指導案作成)	アドベントカレンダー 制作	日常生活に応用	
第13回 内容	発表の準備(指導案作成)	エプロンシアター発表		
第14回 内容	発表の準備(指導案作成)	エプロンシアター発表		
第15回 内容		エプロンシアター発表 まとめ		

* 評価方法

制作の取り組み、作品の評価、発表への取り組み

* 評価基準

授業態度 30点 課題 50点 発表 20点

* テキスト

必要に応じて配布

* 参考文献

必要に応じて紹介

[授業目的・到達目標]

日本の総人口の約25%以上を占める高齢者(65歳以上)の理解と、今後ますます増えると予測されている高齢者の福祉を理解する。

[授業内容・方法]

その時々の高齢者福祉に関するニュースなども交え、受講生とともに考えていく。

[授業形態](履修条件)

講義形式とし、保育士資格取得学生は選択

[各回の授業計画(内容)]

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容	高齢期とは何時からか	高齢者の生活問題と福祉の課題 ①高齢期とは	日本の人口動態	
第2回 内容	高齢期とは何時からか	②高齢社会の到来とその影響	日本の人口動態	
第3回 内容	少子高齢化とは	③高齢者の生活問題と福祉ニーズ	日本の人口動態と少子高齢化の理解	
第4回 内容	老人福祉法第1条の理解	高齢者保健福祉の法と関連施策 ①老人福祉法の理念と制度	老人福祉法の理解	
第5回 内容	老人福祉法の理解	②老人福祉法制定後の高齢者施策の流れ	老人福祉法の理解	
第6回 内容	高齢者の保健と介護保険	③老人保健法の理念と制度	高齢者の保健と介護保険の理解	
第7回 内容	高齢者の保健と介護保険	④介護保険法	高齢者の保健と介護保険の理解	
第8回 内容	在宅サービスは誰が行っているか	在宅福祉サービスの体系と実際 ①在宅福祉サービスの歩み	在宅サービスの現状の理解	
第9回 内容	在宅サービスは誰が行っているか	②在宅福祉サービスの理念と目的	在宅サービスの現状の理解	
第10回 内容	在宅サービスは誰が行っているか	③在宅福祉サービスの種類と概要	在宅サービスの現状の理解	
第11回 内容	老人福祉施設の種類	施設サービスの体系と実際 ①施設福祉の歩み	様々な老人福祉施設の理解	
第12回 内容	老人福祉施設の種類	②施設サービスの種類と概要	様々な老人福祉施設の理解	
第13回 内容	地域社会での高齢者の現状	地域社会と高齢者 ①高齢者の生きがいと社会参加	高齢者の生きがいとは	
第14回 内容	地域社会での高齢者の現状	②地域福祉の推進	高齢者の生きがいとは	
第15回 内容	まとめ(高齢者の明日)	住んでいる地域の高齢者福祉対策を知る		

*** 評価方法**

出席点(欠席及び遅刻は減点)、課題の提出、試験の総合評価

*** 評価基準**

試験は100点満点、欠席1回につき5点減点、課題を忘れると1回につき5点減点

*** テキスト**

特に使用しない

*** 参考文献**

そのつど、紹介する

【授業概要・到達目標】

育児相談に必要な知識、技術を習得し、子どもや保護者の心に沿う育児相談ができるようになる。
専門的保護者支援能力を身につけ、子育て支援における育児相談の実践能力を身につける。

【授業内容・方法】

参加型の授業を中心とし、実践に活かして行くことができる授業形態を取る。また専門的な保護者支援の理論と技術を習得し、実践、評価、分析できる能力を身につける。

【授業形態】(履修条件)

講義、演習(対人関係トレーニング、生活リズム演習、障害者の発育発達支援演習、子どもと保護者の観察演習、相談実践のためのロールプレイング演習)

【各回の授業計画(内容)】

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容		授業ガイダンス レポート1回目		
第2回 内容	対人関係トレーニングの基礎知識(資料)	子育て支援の理論と技術1 対人関係トレーニング	対人関係トレーニングの記録	「子どもの理解と保育・教育相談」
第3回 内容	自分の生活リズムの記録	子育て支援の理論と技術2 生活リズム演習	生活リズムの分析 日常生活支援の考察	
第4回 内容	発達障害、精神疾患の履修内容の復習 障害児支援TEACCHの基礎知識(資料)	子育て支援の理論と技術3 障害児の保護者支援 障害者の発育発達支援演習(TEACCH)	障害児の保護者支援についての考察	DVD「自閉症児の成長と子育て」
第5回 内容	育児相談に多い事例について調べる	子育て支援の理論と技術4 育児相談に多い相談内容 育児支援のチームアプローチ(母子メンタルヘルスチェック票)	相談内容の分析	「子どもの理解と保育・教育相談」 「育児支援のチームアプローチ」
第6回 内容	プレイセラピーの資料	子育て支援の理論と技術5 専門的子育て支援 相談環境 子どもと保護者の観察演習	相談環境構成作成	「保育者の保護者支援 保育指導の原理と技術」
第7回 内容		相談支援のためのロールプレイング1(専門的支援)	保育者の相談支援分析、保護者、子どもの役割の感想	「保育者の保護者支援 保育指導の原理と技術」
第8回 内容		ケースカンファレンス1	保育者の相談支援分析の発表、カンファレンス記録	
第9回 内容	気になる保護者についての資料	気になる保護者支援	気になる保護者支援の考察	DVD「モンスターペアレント」 「気になる保護者とつながる援助」
第10回 内容		相談支援のためのロールプレイング2(気になる保護者)	保育者の相談支援分析、保護者、子どもの役割の感想	
第11回 内容		ケースカンファレンス2	保育者の相談支援分析の発表、カンファレンス記録	「保育者の保護者支援 保育指導の原理と技術」
第12回 内容		相談支援のためのロールプレイング3(虐待に関わる保護者への関わり)	保育者の相談支援分析、保護者、子どもの役割の感想	
第13回 内容		ケースカンファレンス3	保育者の相談支援分析の発表、カンファレンス記録	「保育者の保護者支援 保育指導の原理と技術」
第14回 内容	虐待を受ける子ども、虐待にかかわる保護者の資料	虐待にかかわる保護者への関わり ロールプレイング1~3の保育者の支援の変化、分析 レポート2回目	専門的相談支援、役割の感想の変化、講義を通じて学んだことの分析の記録	
第15回 内容		命の講義 あなたの命、あなたの関わる人たちの命について考えよう レポート3回目	命についての考察 専門的支援の分析、役割の感想の変化、講義を通じて学んだこと	「種まく子どもたち」

* 評価方法 提出物(講義の課題)

* 評価基準 レポート(1回目「子どもや保護者の心に沿う育児相談とは?」 2回目「ロールプレイング1~4を通じての変化」
3回目「あなたの考える育児相談の役割、あり方~子どもや保護者の心に沿う育児相談とは?」)により総合的に評価する。
提出物 50点、 レポート 50点

* テキスト 「保育者の保護者支援 保育指導の原理と技術」柏女霊峰、橋本真紀 フレーベル館 講義資料

* 参考文献 「子どもの理解と保育・教育相談」小田豊、秋田喜代美編 みらい 「育児支援のチームアプローチ」吉田敬子 金剛出版
「子ども虐待と発達障害」渡辺隆 東洋館出版社 「気になる保護者とつながる援助」楠凡之 かもがわ出版
「種まく子どもたち」佐藤律子 ポプラ社

[授業概要・到達目標]

保育士資格を取得するために保育についての勉強を行ってきた。その知識を土台として集団保育とは違う個別保育、在宅保育について学ぶと同時に、仕事として保育を行うためのマネジメントについて学ぶ。最終的には、ベビーシッターとして仕事を遂行できるための基礎的な知識を習得することを目標とする。

[授業のねらい・方法]

個人の居宅における乳幼児、児童の個人もしくは、小集団の保育のあり方や方法について学ぶ。在宅における保育の特殊性や在宅保育の子育て支援としての役割について、また、職業としての在宅保育と法的責任を理解する。また、1対1、2程度の少人数の保育に対する理解を深めると同時に、病後児保育、多胎児(双生児)保育、障害児保育、外国籍児の保育、そして産後のケアについて理解する。在宅保育におけるマナーや緊急時の対応、安全管理についても理解する。

[授業形態](履修条件)

講義 認定ベビーシッター資格取得を希望する者

[各回の授業計画(内容)]

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容	教科書第1章	児童家庭福祉における在宅保育	適宜指導	教科書
第2回 内容	教科書第2章1, 2	ベビーシッター概論(1)	適宜指導	教科書
第3回 内容	教科書第2章3, 4	ベビーシッター概論(2)	適宜指導	教科書
第4回 内容	教科書第3章1	在宅における保育マインド(1)	適宜指導	教科書
第5回 内容	教科書第3章2	在宅における保育マインド(2)	適宜指導	教科書
第6回 内容	教科書第4章	在宅での子育て支援	適宜指導	教科書
第7回 内容	教科書第5章	さまざまなベビーシッターサービス	適宜指導	教科書
第8回 内容	教科書第6章	ベビーシッターのマネジメント	適宜指導	教科書
第9回 内容	教科書第7章	ベビーシッターの実務	適宜指導	教科書
第10回 内容	教科書第8章	小児保健と子どもの発達	適宜指導	教科書
第11回 内容	教科書第9章	在宅保育における健康管理と事故対策	適宜指導	教科書
第12回 内容	教科書第10章	乳幼児の栄養	適宜指導	教科書
第13回 内容	教科書第11章	在宅における保育技術	適宜指導	教科書
第14回 内容	教科書第12章	子どものあそび	適宜指導	教科書
第15回 内容		まとめ		

* 評価方法 期末試験点 100%

* 評価基準 試験による正解数

* テキスト ベビーシッター講座Ⅰ 理論編 中央法規 2600円 ISBN978-4-8058-4755-8

ベビーシッター講座Ⅱ 実践編 中央法規 3200円 ISBN978-4-8058-4756-5

* 参考文献 適宜紹介

* その他 認定ベビーシッター資格を取得希望する人は、保育士資格が取得見込みでなければならない。

[授業概要・到達目標]

リトミックとは心の作用と身体的な運動との融和一致を目指している教育法である。
子どもの、音楽的成長や人格の形成と成長を方向づけることに通じるリトミックについて理論と実践を学ぶ。

[授業のねらい・方法]

保育の現場で実践展開出来るように、表現活動を体得することを中心にリトミックの活動の方法や理論を学ぶ。

[授業形態] (履修条件)

動きやすい服装及びシューズで行う。(詳細はオリエンテーションで説明します)
表現実技中心の内容のため人数は18名程度とします。

[各回の授業計画(内容)]

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容	シラバスを確認しておく	オリエンテーション リトミックとは	リトミックの授業内容を把握する。	適宜紹介
第2回 内容	即時反応の予習及び使用する音楽(ピアノ曲)の練習	即時反応について①	授業の内容を復習する。	適宜紹介
第3回 内容	即時反応の予習及び使用する音楽(ピアノ曲)の練習	即時反応について②	授業の内容を復習する。 即時反応についてまとめる。	適宜紹介
第4回 内容	強弱、速度、音高、空間についての予習及び使用する音楽(ピアノ曲)の練習	強弱、速度、音高、空間について①	授業の内容を復習する。	適宜紹介
第5回 内容	強弱、速度、音高、空間についての予習及び使用する音楽(ピアノ曲)の練習	強弱、速度、音高、空間について②	授業の内容を復習する。 強弱、速度、音高、空間についてまとめる。	適宜紹介
第6回 内容	基礎リズムについての予習及び使用する音楽(ピアノ曲)の練習	基礎リズムについて①	授業の内容を復習する。	適宜紹介
第7回 内容	基礎リズムについての予習及び使用する音楽(ピアノ曲)の練習	基礎リズムについて②	授業の内容を復習する。 基礎リズムについてまとめる。	適宜紹介
第8回 内容	アクセントと拍子についての予習及び使用する音楽(ピアノ曲)の練習	アクセントと拍子について①	授業の内容を復習する。	適宜紹介
第9回 内容	アクセントと拍子についての予習及び使用する音楽(ピアノ曲)の練習	アクセントと拍子について②	授業の内容を復習する。 アクセントと拍子についてまとめる。	適宜紹介
第10回 内容	リズムパターンの予習及び使用する音楽(ピアノ曲)の練習	リズムパターン①	授業の内容を復習する。	適宜紹介
第11回 内容	リズムパターンの予習及び使用する音楽(ピアノ曲)の練習	リズムパターン②	授業の内容を復習する。 リズムパターンをまとめる。	適宜紹介
第12回 内容	リズム・フレーズの予習及び使用する音楽(ピアノ曲)の練習	リズム・フレーズ①	授業の内容を復習する。	適宜紹介
第13回 内容	リズム・フレーズの予習及び使用する音楽(ピアノ曲)の練習	リズム・フレーズ②	授業の内容を復習する。 リズム・フレーズをまとめる。	適宜紹介
第14回 内容	ソルフェージュの予習及び使用する音楽(ピアノ曲)の練習	ソルフェージュ①	授業の内容を復習する。	適宜紹介
第15回 内容	ソルフェージュの予習及び使用する音楽(ピアノ曲)の練習	ソルフェージュ② まとめ	授業の内容を復習する。 リトミックについてまとめる。	適宜紹介

- * 評価方法 表現技能及び授業内での習得技能, 提出物, 試験による総合評価
- * 評価基準 授業内での習得技能25%, 表現技能20%, 提出物15%, 試験40%
- * テキスト ダルクローズ教育法による リトミックコーナー 神原雅之 野上俊之編著
- * 参考文献 0~5歳児のリトミック 芸術教育研究所おもちゃ美術館編 黎明書房
保育における ムーブメント 山浦菊子 徳田泰伸 編 (株)みらい
「音楽表現」の理論と実際 桶谷弘美 吉良武志 熊谷新次郎 齊藤正義 杉江正美
高橋悦枝 共著 音楽之友社

[授業概要・到達目標]

幼児期の子どものにとって遊びは大切なものである。子どもは遊びの中で心、身体、社会性を育み成長する。保育者は子どもたちの遊びが安全に、より楽しく展開できるように援助し子どもの成長を促し、力を引き出すことが大切な役割となる。そのためには、保育者自身がその遊びを楽しいと共感できることが大切であるとする。授業では幼児の運動遊びについて学習する。学生がいろいろな運動遊びを体得し、子どもと楽しく遊べる保育者になる事を目指す。

[授業のねらい・方法]

授業では、まず、保育者が自由にリズムカルに遊び、動けるような身体づくりをねらいとする。前期では、身近な題材(つばめの親子、遊園地等)をテーマに身体表現遊びを行う。まず伝承遊びについて毎回ひとつずつ学習する。さらに盆踊りを学習する。後期は、いろいろな体育遊びを体験しながら指導援助方法、留意点を学習する。さらに後期はフォークダンスを学習する。最後は、身体表現遊びのまとめとして、グループで創作ダンスを作り発表する。

[授業形態](履修条件)

実技である。教師が指導する形態の他、グループ同士で発表しあったり、教えあったりする形態も取る。

履修条件：① 体操服、体育館用運動靴で行う。(髪はまとめて、装飾品は外して)

② 各回、遊びを体験しながら学習するので、しっかり出席すること。遅刻3回で欠席1回とする。

[各回の授業計画(内容)]

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容		ガイダンス ・初めて会った時のゲーム		
第2回 ～ 第8回 内容	伝承遊びについて調べる	基礎づくりの体操 ・準備体操の解説 ・子どもの柔軟体操 ・基本的なステップ ・伝承遊び(グループ活動)	基本的なステップの復習 伝承遊びの復習	
第9回 内容		身体表現遊び ・盆踊り ・「鳥と木と嵐」		
第10回 ～ 第11回 内容		身体表現遊び ・盆踊り ・「つばめの親子」		
第12回 ～ 第14回 内容		身体表現遊び ・盆踊り ・「遊園地ごっこ」 (グループ発表)		
第15回 内容	ステップの練習	ステップのまとめ 試験 ・基本的なステップのテスト	ステップの復習	
第16回 ～ 第19回 内容		ボール遊び ・ボールを持つ ・ボールをころがす、投げる ・ボールを蹴る ボールのゲーム	ボール遊びの復習	プリント配布
第20回 内容	長縄の跳び方(歌付き)を調べ	る 縄遊び (グループ活動) ・長縄を跳ぶ遊び(歌付き) ・縄を使った跳ばない遊び	・短縄の跳び方 縄遊びの復習	
第21回 内容		力くらべ遊び ・押し合い、引っぱり合い ・おしくらまんじゅう、ゲーム おすもう大会	力くらべ遊びの復習	
第22回 内容		鬼遊び ・ルールのある鬼遊び 人数で分けた鬼遊び	鬼遊びの復習	
第23回 内容		新聞紙遊び ・新聞紙を使ったいろいろな遊び(各自新聞紙を2枚用意)	新聞紙遊びの復習	
第24回 ～ 第27回 内容		フォークダンス ・フォークダンスの学習 (一斉指導・各グループ毎)	フォークダンスの復習	プリント配布

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第28回 ～ 第30回 内容	ダンスの振り付けを考える	創作ダンス（グループ活動） ・各グループで、テーマについて話し合い ・各グループ毎に創作活動	ダンスの振り付けを考える	
試験 内容	ダンス作品の練習	創作発表 ・各グループ毎に創作ダンスを発表する ・相互評価、感想を記述 ・教師による総合評価	後日、相互に評価、感想を読み 合い自他の良さを知り、今後 に生かす。	

* 評価方法

授業内の各課題への取り組み方と習熟度、前期試験、後期試験（創作発表内容）により総合評価する。

○前期試験は15回目の授業時に行う。個人の基本のステップの習熟度を評価する。

○後期試験は30回の授業後に、授業内で各グループが創作した、創作ダンスの発表会という形で行う。各グループで協力してひとつの作品を作り上げることができたか、作品の独創性、完成度を評価する。また、相互に評価し合う。

* 評価基準

授業内での各課題への取り組み方と習熟度(10%)前期試験(45%)、後期試験(45%)により評価する。

* テキスト

なし。他は、授業内で必要に応じ、プリント配布

* 参考文献

なし

保育実習Ⅳ（実習指導）

半期 1単位 選択 受講対象学年2年次

桑原逸美・藤京子

[授業概要・到達目標]

保育所実習の事後指導、施設実習(Ⅲ)の事前事後指導、保育実習(V・Ⅵ)の事前指導を行う。

保育所実習の反省点を踏まえ、保育実習Ⅴに備える。児童福祉施設及び知的障害者施設について視聴覚を通し理解し、施設実習の目標を定める。「個人カード」の記入方法を指導する。

[授業のねらい・方法]

保育所実習後のアンケートに基づき、反省と今後の課題を確認する。

施設実習については、視聴覚教材等とおして、実際に理解する。また、福祉施設に就職をしている本学卒業生を招いて、福祉施設の現状と実習の留意点について講話をしていただく。

[授業形態](履修条件)

保育士資格取得学生は受講すること。基本的には、講義形式による授業形態。

[各回の授業計画(内容)]

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容	・保育所(園)実習を振り返る。	・オリエンテーション ・保育所(園)実習後のアンケート調査		
第2回 内容	・「個人カード」に記入する自己PR文を準備しておく。 ・自分の実習先を確認	・保健講話「感染症について」 ・「個人カード」下書き(8月施設実習・11月選択必修実習)	感染症についてまとめる。	
第3回 内容		・「個人カード」清書 ・ビデオ視聴「乳児院・児童養護施設」		
第4回 内容		・保育所(園)実習後アンケート結果について	アンケート結果をまとめる。	
第5回 内容		・保育所(園)実習後アンケート結果について	アンケート結果をまとめておく。	
第6回 内容	・「肢体不自由」についてファイルで確認しておく。	・肢体不自由児について説明 ・「がんばりよ健太(2)」ビデオ視聴	肢体不自由児についてまとめる。	養護原理の授業で作成したファイル。
第7回 内容		・「生きる」とはどのようなことか考える。	いのちの大切さを今一度考える。	養護原理の授業で作成したファイル。
第8回 内容		・ビデオ視聴「ひとりひとりの道」		養護原理の授業で作成したファイル
第9回 内容	・教科書p112～読む	・施設実習オリエンテーション	提出書類等の確認をしておく。	
第10回 内容	・教科書p188～読む	・施設実習日誌の書き方と諸注意	日誌の必要性を理解する。	
第11回 内容	・先輩への質問をまとめておく。	・児童福祉施設及び知的障害者施設に勤務している本学卒業生からの講話	自分の行く実習先について認識を深める。	
第12回 内容	・教科書p132～読む	・児童養護施設とは ・「大村こどもの家」ビデオ視聴	「養護」とはどのようなことか、今一度確認をしておく。	
第13回 内容		・施設実習における最終準備と確認	実習初日の時間や持ち物等を確認する。	
第14回 内容		・実習を終えて事後指導	反省点をまとめる。	
第15回 内容		・保育実習(V・Ⅵ)のオリエンテーション	提出書類等の確認をしておく。	

* 評価方法

提出書類、授業参加態度等、総合的に判断する

* 評価基準

提出物80%(期日までに提出されない場合は減点)、授業態度20%(授業中の居眠りは減点の対象)

* テキスト

- (1)1年次に使用した「教育・保育・施設実習の手引き」
- (2)1年次「養護原理」で作成したファイル
- (3)必要に応じて資料を配布する

* 参考文献

必要に応じて紹介する

保育原理Ⅱ（指導計画の作成）

半期 2単位 必修 受講対象学年1年次

桑原逸美・柿田崎子

【授業概要・到達目標】

保育所保育指針で示されている養護と教育の意味を理解し、子どもを主体とした保育の計画作成の実践力をつける。

【授業のねらい・方法】

保育所保育指針・保育課程・指導計画との一貫性を理解する。

様々な事例を参考にし、指導計画（月案・週案・日案・個人案）を立案し、その基礎を学ぶ。

【授業形態】（履修条件）

講義と演習を行い、内容によりグループ討議や発表を行う。

【各回の授業計画（内容）】

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容		指導計画とは（保育所保育指針と保育課程、指導計画の考え方）		
第2回 内容		指導計画とは（保育所保育指針と保育課程、指導計画の考え方）		
第3回 内容		指導計画の考え方と作成のポイント		
第4回 内容		押さえておきたい指導計画作成のコツ		
第5回 内容		園の1年の行事とスケジュール・年間計画		
第6回 内容		月案・週案・日案・個人案		
第7回 内容		0歳児の指導計画・月案・週案・日案・個人案		
第8回 内容		1歳児の指導計画・月案・週案・日案・個人案		
第9回 内容		2歳児の指導計画・月案・週案・日案・個人案		
第10回 内容		3歳児の指導計画・月案・週案・日案・個人案		
第11回 内容		4歳児の指導計画・月案・週案・日案・個人案		
第12回 内容		5歳児の指導計画・月案・週案・日案・個人案		
第13回 内容		異年齢保育の指導計画づくりのポイント		
第14回 内容		障害のある子ども・アレルギーのある子ども・長時間保育の指導計画		
第15回 内容		まとめ		

* 評価方法

定期試験と演習を総合して評価する。

* 評価基準

定期試験70パーセント、演習レポート30パーセント

* テキスト

なし

* 参考文献

保育所保育指針 幼稚園教育要領

[授業概要・到達目標]

保育園生活の中での様々な文化的活動について、体験的に学習し理解を深める。

子どもの豊かな遊びを提示し、援助することができるよう、児童文化を形づくる「もの」「素材」「環境」についての知識と技術を身につけ、それらを活用する力をつける。

子ども達の目線で遊びの楽しさ、奥深さを知るよう、学生自らが「遊び」を楽しむ。

[授業のねらい・方法]

児童文化財、季節や行事などの文化に親しみ、身近な素材を使った創作、造形活動に取り組む。

実習で役立つ手遊びや歌遊びを学ぶ。

[授業形態] (履修条件)

講義、演習、制作、発表。

[各回の授業計画(内容)]

区分	事前学習	授業内容	事後学習	参考文献
第1回 内容		オリエンテーション 児童文化とは		プリント
第2回 内容	制作の準備	春の行事 (ひなまつり・入園式・こどもの日等)	日常生活に応用	以下同上
第3回 内容	資料収集	絵本 (読み方・選択のしかた)	家族、友人に発表	
第4回 内容	資料収集	紙芝居 (演じ方・展開のしかた)	図書館で復習	
第5回 内容	制作の準備	夏の行事 (七夕・祭り・プール等)	日常生活に応用	
第6回 内容	資料収集	素話 ペープサート	ペープサート制作(課題)	
第7回 内容	発表の準備	秋の行事 (運動会・七五三等)	日常生活に応用	
第8回 内容	発表の準備	パネルシアター 児童文化財発表		
第9回 内容	発表の準備	パネルシアター制作 児童文化財発表	作業を進める	
第10回 内容	発表の準備	パネルシアター制作 児童文化財発表	作業を進める	
第11回 内容	発表の準備	エプロンシアター 児童文化財発表	家族、友人に発表	
第12回 内容	制作の準備 発表の準備	冬の行事(クリスマス・正月・節分等) 児童文化財発表	日常生活に応用	
第13回 内容	制作の準備 発表の準備	伝承遊び(物を使用) 児童文化財発表		
第14回 内容		伝承遊び(身体表現) 児童文化財発表		
第15回 内容		まとめ		

* 評価方法

授業態度、課題提出、筆記試験

* 評価基準

課題提出 40点 試験 60点

* テキスト

必要に応じて資料を配布

* 参考文献

必要に応じて紹介